教育随想

「三年間の任期を終えて」

前教育委員会事務局参事
（兼）指導室長事務取扱
川越　孝洋

毎朝拝島にて青梅線に乗り換え、しばらくすると福生第一中学校が視界に入ります。その１００ｍ手前右手を振り返ると、玉川上水の四季の移り変わりを、そして、その直後には、一中野球部の早朝練習で元気な子どもたちを目にします。この福生の朝の光景が大好きでした。疲れを癒してくれる実に爽やかで素晴らしい朝でした。

福生市にお世話になって三年間、さまざまに活躍している輝く子どもたちと出会いました。そして、校舎のあちこちや昼夜、休日問わず常に子どもたちと共に在る先生方、いつも学校のことを気にかけて、何をおいても学校に協力していただいている保護者の方々と地域の方々とも多くの場面を共有できました。また、市役所でも子育てを最大限応援する議会や教育委員の方々、さらには、市役所職員の方々は、誰よりもこのまちを愛する方々でした。

私は、子どもが大好きで東京都の教員になり、東部の地区を駆け出しに、中部、西部と多くの学校や行政を見てきました。しかし、こんなにも、子どもたちに深く大きな支援をしている自治体はないと思えるほど素晴らしいまちで働けたことに、誇りを感じると共に感謝の気持ちでいっぱいです。また、そうした支援に見事に応えてくれる子どもたちがたくさんいることを日々喜びとしながら充実した気持ちで、自らを奮い立たせ常に緊張感をもって務めることができました。

私は、この三年間行政の一員として、いかにして学校を本質的にサポートできるかをいつも考え、悩み、しかし、たくさんの方々に応援をいただきながら進めることができました。常に学校で見聞きする子どもたちを起点にして、子どもたちの成長を第一に考えながら自分の役割を果たしてきました。できる限り学校に出かけ、市内の各小学校、中学校の児童・生徒の実態を正確に把握し、児童・生徒や各学校が抱える課題について、その根拠や背景を含めて分析し、焦点化することを心掛けました。そして、学校教育施策として検討し、各学校と教育委員会が連携を密にして課題を共有するだけでなく、各学校の校長先生や先生方による実践と教育行政の施策との間にズレが生じないよう努めてきました。

教育は、すべて意図的で計画的な営みです。私は、「子どもは学び続けている限りくずれない」と思います。私が出会った福生の先生方は皆、じっくりと子どもの視線で子どもの成長を信じて、子どもの自立へ向けて真正面から向き合っていました。朝一番、学級活動の中で、子どもたちのその日その時の心にあることを書かせ、毎日担任がコメントをつけて子どもたちに返却するという継続的な実践を通して、確実にクラスの落ち着きと学力向上につなげている、ある先生の実践。また、部活動による騒音の苦情を子どもたちに手紙を書かせることで、地域の苦情が応援に変わるという実践をした先生。子どもたちの進路実現のため、休日も返上して継続的に部活動や補習を続けている学校。さらには、学校に登校できない子どもたちに個別の学習で寄り添い、夜の家庭訪問で、保護者を元気付け、勇気付けて、子どもの生活基盤を整えるお手伝いをしている担任教師や学校サポートチームスタッフの方々。

実にきめ細やかに子どもたちへの愛情をかけ続けるまちが、私の誇りである福生市であります。

子どもたちは学びをあきらめて、絶望したら、仲間、教師、そして、自分自身を信用しなくなります。福生の子どもたちが、生き生きと前向きに明るく生活し、「学びをあきらめない」状況をいつもつくれるか、これが、私たちの責任であります。

私たち教師は日々、子どもたち一人ひとりに声をかけ、励ます中で、子どもたちがより良く学習できる教材と学習環境づくりに努めていかなければならないと思います。私は、「わかりたい」という表情で机に向かい、「僕は頑張るんだ」という表情で鉛筆を握る福生の子どもたちをみて、改めて教師が「教え続ける」ことと「学び続けること」をあきらめない公立学校づくりへの強い意欲をもつことができました。

私の福生市教育委員会での職責は、自分を追い込み頑張っている先生方や管理職の方々と、現状を改善の視点で見つめお伝えいただいた保護者や市民の皆様の声に押されて果たすことができたものだと感謝しております。

しなやかな思考とさわやかに学び続けるふっさっ子の活躍、粘り強く子どもたちを支えてくださっている方々のご活躍を心から祈ります。

そこで、私の福生市での任期を終えるにあたり一句。

「しなやかに、節目に思う、竹の春」

文化財だより

「福生市への道」

今年度、福生市は市制40周年を迎えます。そこで福生市が歩んだ市制への道をたどってみましょう。

福生市域での人びとの生活の痕跡は縄文時代に始まります。市内の長沢遺跡では約４０００年前の住居跡が発見されています。

しかしその後は鎌倉時代に至るまで、明確な人びとの生活の痕跡が確認されていません。鎌倉時代に入るとようやく人々の生活の痕跡が現れます。市内からはこの時代の板碑（石製の供養塔）が数基発見されています。

次の南北朝時代、そして室町時代から戦国時代にかけて、多摩地域も戦乱の時代でした。市内に伝わる古文書によると、戦国時代の福生市域は、八王子城主北条氏照の支配となり、「福生郷」と呼ばれていました。天正18年（一五九〇）、徳川家康が関東に入国します。江戸時代がはじまり福生市域は、五日市街道をはさんで北側が福生村、南側が熊川村となります。江戸幕府の直轄領や旗本領として幕末まで続きました。

明治時代に入ると、新政府のもとで明治４年（一八九一）に廃藩置県がおこなわれました。その結果福生村と熊川村は、神奈川県などを経て明治26年（一八九三）に東京府に所属します。その間、近隣の川崎村や五ノ神村などと合併や連合をした後の明治22年（一八八九）、「福生村熊川村組合」が福生市に至る第一歩として誕生しました。

昭和10年代になると、立川市周辺に軍事基地や軍事関連工場が数多く建設されます。福生市域にも太平洋戦争へと向かう緊迫した時代の昭和15年（一九四〇）、日本陸軍が多摩飛行場を建設しました。そしてこの年、「福生村熊川村組合」は東京府主導のもとで11月10日に福生町となりました。

戦後、混乱の中からの復興が始まります。日本陸軍多摩飛行場は米軍横田基地となりました。国の経済の発展により、首都圏に人口が集中したことで、福生市域も都市化現象が進行していきました。昭和40年代はじめになると、市域の人口は３万人を超えました。都市化が加速したことから昭和43年（一九六八）、福生町の将来の発展と住民の福祉のため市制が必要という考えのもと、他の町とともに人口３万人で市制が施行できるよう国に対し要望しました。

そして昭和45年（一九七〇）、福生町は市制の夢が実現します。３万人市制が可能になったこの年、全国第一号として自治省から市制を許可され、７月１日に福生市が誕生しました。

昭和45年の第一小学校

問合せ　福生市郷土資料室　☎530・1120

教育委員会の動き

平成22年1月から3月までの教育委員会定例会の主な内容を紹介します。

平成22年第1回福生市教育委員会定例会（1月22日）

□議案

◎平成21年度福生市教育委員会表彰者の決定について

ほか、議案1件

平成22年第2回福生市教育委員会定例会（2月18日）

□議案

◎福生市入学資金融資条例の一部を改正する条例に対する意見聴取について

ほか、条例改正等の議案7件

◎「不登校・特別支援教育にかかわる組織・運営に関する在り方検討委員会」検討結果について

◎土曜日における授業の取組について

◎福生市教育振興基本計画（案）の制定について

ほか、関連議案1件

協議事項1件

平成22年第3回福生市教育委員会定例会（3月26日）

◎組織改正に伴う関係教育委員会規則の整理に関する規則について

ほか、関連改正議案8件

◎「第二期福生市生涯学習推進計画」を策定するための福生市の生涯学習の振興方策に伴う答申について

ほか、委員の委嘱関係議案2件

ほか、報告事項5件

問合せ　庶務課　庶務係　☎551・1930